

幸千	中学校区	校番	福山市立	幸千中	学校
最終更新日			2025年(令和7年)2月18日		

I 福山市	<p>福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ミッション ビジョン</p> <p>「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
-------	--

II 中学校区	<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○子どもに力をつけるために、先生方が新しい手法・ツールを模索しながら、多様な取り組みをされている。 ●保護者・地域住民への積極的な情報発信を行い、連携をさらに深めて欲しい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>●不登校出現率が高い。 ●体力テストにおいて、県の平均値以上の項目が少ない。 ○地域行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒が年々増えている。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>思考・創造力 表現力 思いやり 能動的市民性</p>	<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>○主体的に学び よく考える生徒 ○自分なりに表現し伝え合う生徒 ○思いやりのある生徒 ○人や社会に貢献しようとする生徒</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <p>○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科等と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。</p>		

III 自校	<p>ミッション</p> <p>福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>思考・創造力 表現力 思いやり 能動的市民性</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>レベル3 自分自身の「思考・想像力」について評価し、示すことができる。</p> <p>レベル2 情報を収集するとともに、分析・活用しながら、問題を発見し、その問題解決を目指すことができる。</p> <p>レベル1 与えられた情報を整理できる。</p>	<p>思考・創造力</p> <p>自分自身の「思考・想像力」について評価し、示すことができる。</p> <p>多様な人たちに、相手の立場や背景を考えながらわかりやすく伝えることができる。</p> <p>自分の意見や考えを集団の前で話すことができる。</p>	<p>表現力</p> <p>自分自身の「表現力」について評価し、示すことができる。</p> <p>多様な人たちに、相手の立場や背景を考えながらわかりやすく伝えることができる。</p> <p>自分の意見や考えを集団の前で話すことができる。</p>	<p>思いやり</p> <p>自分自身の「思いやり」について評価し、示すことができる。</p> <p>周囲の幸せを考えることができ、集団や他者に対して、思いやりを持って行動することができる。</p> <p>集団や他者との中で、他者を気づかえる。</p>	<p>能動的市民性</p> <p>自分自身の「能動的市民性」について評価し、示すことができる。</p> <p>社会をよりよくしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がよりよくなるために行動できる。</p> <p>所属する一員としての自覚を持つ。</p>
<p>学校教育目標</p> <p>有為の人 ～夢の実現にむけ、真摯に努力する生徒の育成～</p>							
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが問題発見をし、問題解決することに挑戦している。例えば、地域ボランティアを生徒が企画、運営し、取り組み後には次に向けての改善策を考えている。また、学校行事においても、生徒が創る行事に取り組んでいる。 授業の学びの場面だけでなく、日常生活においても、探究する姿勢がまだ弱い。 不登校生徒が、52名(8%)いる。※全国平均5.98%(R4) <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒はゴールをイメージし、それに向かって主体的に学習を始めつつある。しかし、授業に対して受け身の生徒がまだ多く、生徒が学びの必然性を感じ、主体的に学習に取り組めるようにするために「生徒が問いをもつ授業づくり」を目指している。 検定に挑戦することを通して自信を持った生徒が増えており、授業の延長、主体的な学びの一環として「検定に挑戦することをよし」とするムードが醸成し始めた。 		<p>研究</p> <p>テーマ 問いを創る授業について探究する</p> <p>内容等 ①「はてなプロジェクト」(生徒が「問い」をもつ授業づくり)を学期に1回実施する。 ②指導と評価の一体化について意識した実践を重ねる。</p>	<p>めざす授業の姿</p> <p>○生徒が「問い」をもつ授業(主体的・対話的で深い学び) ○わからないことがわからないといえる授業(誰一人見捨てない、生徒指導三機能)</p>				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 幸千中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの推進 教員の授業力の向上と生徒に対する確かな学力の育成 	★	継続	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的に学ぼうとする態度を育む。 教員の学びをファシリテートする力・単元を構想する力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が課題意識をもって学習に取り組めるような単元・授業づくりを探究する。 指導と評価の一体化を意識した実践を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が生徒の変化に応じ、柔軟な授業の実践(教職員100NEN)が関連項目において肯定的評価90%以上) 生徒の学びの状況(生徒アンケート関連項目において肯定的評価80%以上) 全国学調/伸び調査/各種調査(昨年度結果より上昇) 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の柔軟な授業実践についての肯定的評価は97.1%であった。 生徒の学びの状況の肯定的評価は84.4%であった。 全国学力学習状況調査においては、国語について正答率が福山市の平均値に追いついた。学力の伸び調査においても、国語について学力が伸びた生徒の割合が、市平均よりも上回った。(3年+3.0ポイント、2年+4.9ポイント) 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で付たい力を明確にして、生徒の思考場面を意識した単元構想シートを作成し授業を行う。 教員同士が授業づくりについて学び合うために、授業参観週間を設定する。 定期試験等で習得した知識を活用して解決を図る問題を作成し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の柔軟な授業実践についての肯定的評価は100%であった。 生徒の学びの状況の肯定的評価は85.2%であった。 授業参観週間の実施や校内研修の実施などを通して、教員同士が授業を見合うことで単元を意識した授業づくりなどについて意識を高めることができた。 定期試験等で習得した知識を活用して解決を図る問題を各自で作成、実施する取組を進めた。 	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、全国学力・学習状況調査や各種調査などの分析を通して、生徒の実態(課題など)をとらえ、それらを踏まえた、生徒の学力を高めるための単元づくり・授業づくりをすべての教科で推進する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情、自己肯定感、自己効力感の高い生徒の育成 一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるWell-beingの理念の実現 		継続	<ul style="list-style-type: none"> 自分で決めて実行し成功する体験を通して生徒に自信を育む。 生徒がボランティア活動を企画・運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ライフスキルプログラムの実施および取組内容の全校周知。 各種検定の推進(検定の意義および実施計画・結果等の周知)。 ボランティア活動の企画(月に1回)と活動成果の周知。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校出現率(諸問題集計にて7%以下) 生徒アンケート「ボランティア活動に積極的に参加している」60%以上 生徒アンケート「自分で目標を決め、学びに向かっている」85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 担任を中心とした生徒との関係作りを進めている。(不登校出現率3.9%：7月末現在) 月1回のボランティア活動を実施している。(生徒アンケート「ボランティア活動」に積極的に参加している48%) 自分で目標を決め、学びに向かっている生徒の割合 86% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 新規の不登校生徒発生に対応するため、担任を中心とした計画的な教育相談の実施を行う。 生徒が参加しようと思える(ボランティア)活動内容を計画するとともに、ボランティア部を中心に参加の呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任を中心とした生徒との関係作りを進めている。(不登校出現率5.87%：12月末現在) 月1回のボランティア活動を実施している。(生徒アンケート「ボランティア活動」に積極的に参加している47%) 自分で目標を決め、学びに向かっている生徒の割合 89% 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 全ての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、相談しやすい環境作りおよび生徒との信頼関係構築に努める。また、日々の学習活動において意図的に価値付けを行う。 生徒が参加しようと思えるボランティア活動を目指し、活動内容を生徒自身に提案させるとともに、地域や学校の課題やニーズに即した取り組みを行う。 ライフスキル教育プログラムを基盤とし、自分で決めることの意義を生徒に実感させ、自己有用感を与える。
2	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指す生徒の育成 		継続	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に体力の向上に取り組む態度を育む。 運動の楽しさを実感し、健康を大切にすることを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業で、筋力・基礎体力の向上に係る種目の継続実施。 授業の中で協動的な学習の場を与え、他者との協力や励ましの中で自己肯定感が高まる取組を行う。 生徒が生活習慣の改善や食育の推進の機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力調査において、筋力・筋持久力の項目を全国平均値以上にする。 生徒アンケートにおける協動的な活動に対する肯定的評価が80%以上 朝食摂取状況(生徒アンケート関連項目において肯定的評価90%) 	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力調査において、筋力・筋持久力の項目で全国平均値以上は1種目であった。 体育的活動の場面における協動的な活動に対する肯定的評価は、92%であった。 朝食摂取状況について、7月実施のアンケートにおける結果は「毎日食べている」が76%、毎日ではないが「週5日以上食べている」が13%であった。 	2	2	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業開始後の補強運動で、筋力・筋持久力に関する運動を継続的に実施する。 授業の中で他者との協力や励ましを実感できる場の設定を行う。 生徒会を中心に朝食の必要性や意義を啓発する活動を行うとともに、学年通信などを活用し、保護者への生活習慣の改善について呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業開始の補強運動で、腹筋運動を行うなど筋力・筋持久力向上につながる運動の取組を実施することができた。 体育的活動の場面における協動的な活動に対する肯定的評価は、94%であった。 朝食摂取状況について、12月実施のアンケートにおける結果は「毎日食べている」が78%、毎日ではないが「週5日以上食べている」が9%であった。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力調査において全国平均値以上の項目が少なく基礎的な体力づくりが必要である。引き続き、体育の中で、基礎体力の向上に係る種目の継続実施を行う。 授業の中で他者との協力や励ましを実感できる場の設定を行い、自己肯定感を高め、運動に意欲的に取り組める生徒を育む。 朝食についての意識付けを行い、生活習慣の改善を図る。

3	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が元気、笑顔で勤務できる環境の充実 ・教職員が個性を發揮しながら、生徒とともに自ら挑戦し続けることができる環境づくり 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員どうしの対話、コミュニケーションを深める。 ・組織マネジメントを確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業績評価（自己申告）書で、教職員一人一人がやりがいの持てる目標を設定する。 ・チーム幸手として協動的で支え合える組織体制を構築する。 ・カリキュラムマネジメントを意識し、生徒の資質能力を育み、教職員一人一人の持ち味を生かした持続可能な教育課程を編成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が教科の面白さを実感（100NEN教育アンケート関連項目において肯定的評価85%以上） ・授業づくりを行う時間の確保（100NEN教育アンケート関連項目において肯定的評価80%以上） ・個性が認められている（100NENアンケート関連項目において肯定的評価85%以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の面白さを実感できている教員の割合100% ・授業づくりを行う時間の確保ができている教員の割合 82.4% ・自分の個性が認められていると感じる教員の割合 85.3% ・今年度前半は、指標として設定した項目の目標値を上回ることができた。引き続き、教職員が働き甲斐を感じられる環境づくりに尽力していく。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が意欲を持って勤務できる環境をつくるために、組織づくり、業務改善、持続可能な取り組みを、教職員と一緒に考えて考えながら、更に充実させていく。 ・教職員一人一人が子どもたちを高めるため、自分自身を高めるためにやりたいことや取り組んでみたいと考えることに対して、積極的に後押しするとともに、必要な支援を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の面白さを実感できている教員の割合100% ・授業づくりを行う時間の確保ができている教員の割合 83.4% ・自分の個性が認められていると感じる教員の割合 94.5% <p>上記アンケート結果より前期よりも数値上昇が見られる。またアンケート項目における「仕事にやりがいを感じている」での肯定的評価は100%であり、職員全員が生徒主体の学びに向け邁進していると言える。</p>	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室での教職員の対話は質的向上を感じる。授業、学級経営、生徒指導、研究等について職員同士で対話する姿がよく見られた。今後は職員の対話から新しい課題そして解決に向けての方策や取組が生まれコミュニケーションの場を作っていく。 ・次年度は対話やコミュニケーションから派生した課題を具体的にし、解決していく職員集団を目指し、生徒主体の学びの実現と、確かな学力の定着を目指す。
---	---	----	--	--	---	--	---	---	--	--	---	---	---	--

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。